

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-025	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Alcohol consumption and smoking and their associations with socio-demographic characteristics, dietary patterns, and perceived academic stress in Puerto Rican college students.</p> <p>プエルトリコ大学学生の飲酒・喫煙と社会人口統計学的特徴、食事パターン、学術面から受けるストレスとの関係</p>		
<b>執筆者</b>		
González AM, Cruz SY, Ríos JL, Pagán I, Fabián C, Betancourt J, Rivera-Soto WT, González MJ, Palacios C.		
<b>掲載誌</b>		
P R Health Sci J. 2013 Jun;32(2):82-8.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
プエルトリコ、大学生、飲酒、喫煙、学術面でのストレス、食事パターン		23781624
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 大学生はストレスを和らげるために飲酒や喫煙など様々な方法をとる。本人が感じる学術面でのストレスと飲酒、喫煙、食事パターンとの関係を大学院生で調べた。</p> <p><b>方法：</b> プエルトリコ大学の医学部キャンパス(UPR-MSC)のそれぞれの学科から層別に抽出されたキャンパス集団を代表する 275 人の学生に 48 の質問に答えてもらった。質問内容は社会人口統計学的な質問、自身が感じるストレス程度、飲酒頻度と飲酒量・酒の種類、飲酒・喫煙習慣、食事パターン等の食事に関する質問が含まれた。フィッシャーの正確確率検定と X<sup>2</sup> 検定を行い変数間の関連を求めた。</p> <p><b>結果：</b> 3%のみが 1 日 1 本以上タバコを吸う喫煙者と考えられ、喫煙者は 21~30 歳に最も多かった (p&lt;0.05)。喫煙は学業でのストレスや負担、食事パターンとは関連していなかった。ほとんどの喫煙者は主な喫煙理由をストレスに対処するためと答えた。学生の 70%は飲酒者で、性別では女性が(63.5%)、年代では 21~30 歳が(90.6%)高く、収入が少ない群と中等度の群でも割合が高かった(p&lt;0.05)。飲酒は学業のストレスと有意に関連しており、飲酒者の大部分が中等度の学業でのストレスを経験していると答えた(p&lt;0.05)が、飲酒は食事パターンや学業負担とは関連していなかった(p&gt;0.05)。飲酒者の多く(81%)が、彼らの経験では飲酒はストレス対処に効果的な方法ではないと回答した。</p> <p><b>結論：</b> 飲酒は学業ストレスとのみ関連していた。喫煙習慣と学業ストレスや学業負担、食事パターンとの間には関連を認めなかった。</p>		